

文化芸術団体における後継者育成に関して

鹿沼市

鹿沼市文化協会

鹿沼市役所 文化課

15 班

コミュニティデザイン学科

田野辺真奈

湯本優花

建築都市デザイン学科

青木香緒里

社会基盤デザイン学科

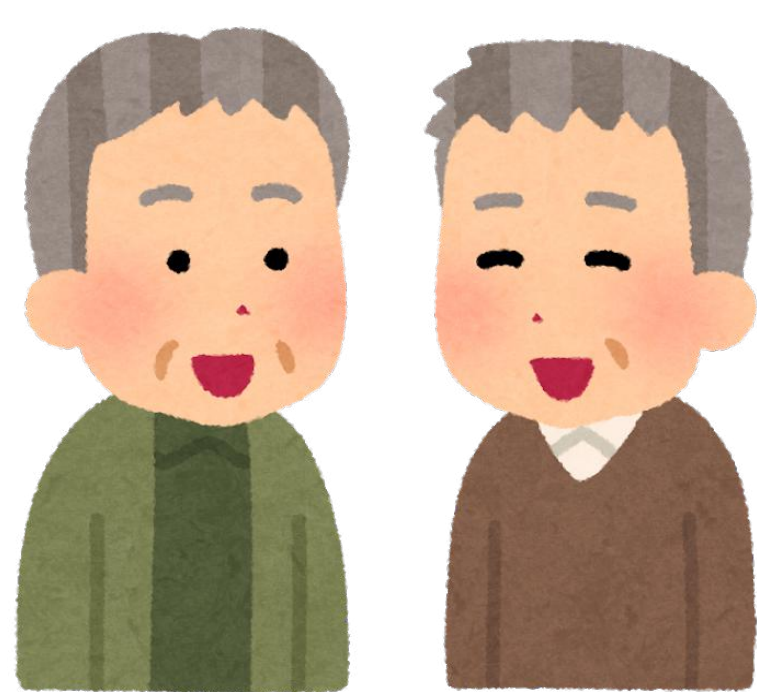
空本健太郎

野沢哲哉

▽ 背景 ～鹿沼市文化協会とは～

鹿沼市は、県西部に位置し、昔から自然と文化に彩られたまちとして栄え、バランスのとれた暮らしやすいまちとして発展した。そのため、友人や同じ趣味の仲間が集まったサークルが地域内にいくつも存在しており、各サークルで活動の情報を共有したいという思いをきっかけに、鹿沼市文化協会が設立された。

鹿沼市文化協会は昨年、40 周年をむかえたが、組織全体の高齢化と会員数の減少という問題があり、協会の存続・発展には現会員より若い世代の加入が不可欠となった。最近では、ダンスやイラスト・漫画などの新部門を開拓し、若者の加入を増やす取り組みをしているが、若者の会員数は増加傾向にないことが現状である。



2018 年度鹿沼市民文化祭の様子

▽ 目的

「文化協会の存在と活動は、市民の文化振興を促していて、協会が社会的意義があるものだ」という認識を協会内外に広めること」が全体目標としてある。
1st Cycle では、提示された課題の実際を確認して、協会員側はどのように文化協会の現状をとらえているのかを確認し、2nd Cycle では、協会があるメリット、存在意義を明確化し、協会内の高齢化・会員数減少の課題解決へ繋げることを目的とした。

▽ 方法

①インタビュー（5/19）

・鹿沼市文化協会通常総会に参加

・調査内容：協会員側はどのように文化協会の現状をとらえているのかについての確認

②アンケート（10/18～28）

・調査対象：文化協会役員 46 名

・主な内容：回答者自身について、入会について、交流機会について

③アンケート結果報告・追加調査（12/13）

・アンケート結果の報告とそれに対する意見・感想

・現段階での解決策の提案とそれに対する意見・感想

▽ 分析結果

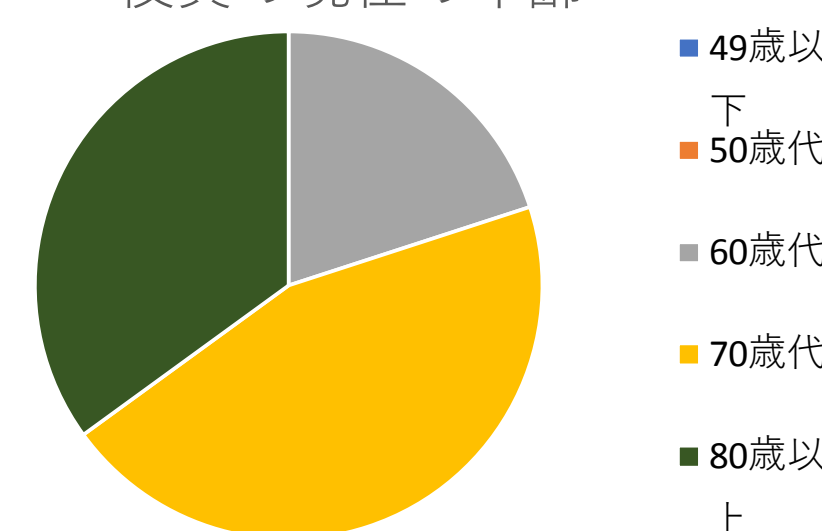
①インタビュー結果

協会として将来への危機感をもっていることが明らかになった。また、会長・副会長の思う文化協会入会のメリットは、学生時代のサークル活動や趣味を、何十年後かに再開できる場の一つであるため、新規会員のターゲットとしては 50 代頃だという。（若者＝50 代）

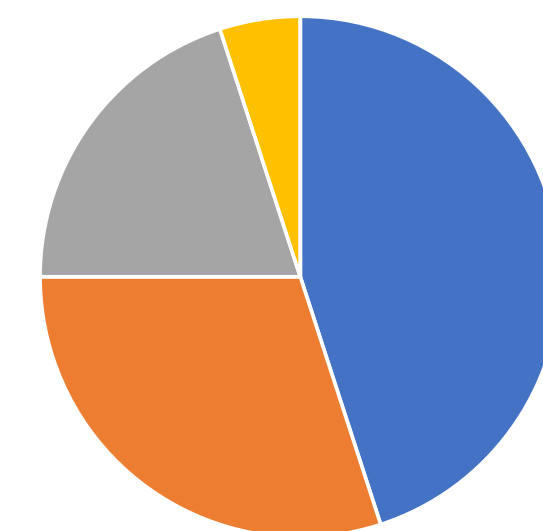
「学生は文化協会をどう思っているのか」といった疑問を聞き、私たちとしては「存在を知らない、知る機会がない」という事が大きく、世代間の認識の差も発見できた。学生の認知度を上げるための活動も、将来の新規加入者獲得に影響すると考えられる。

②アンケート結果

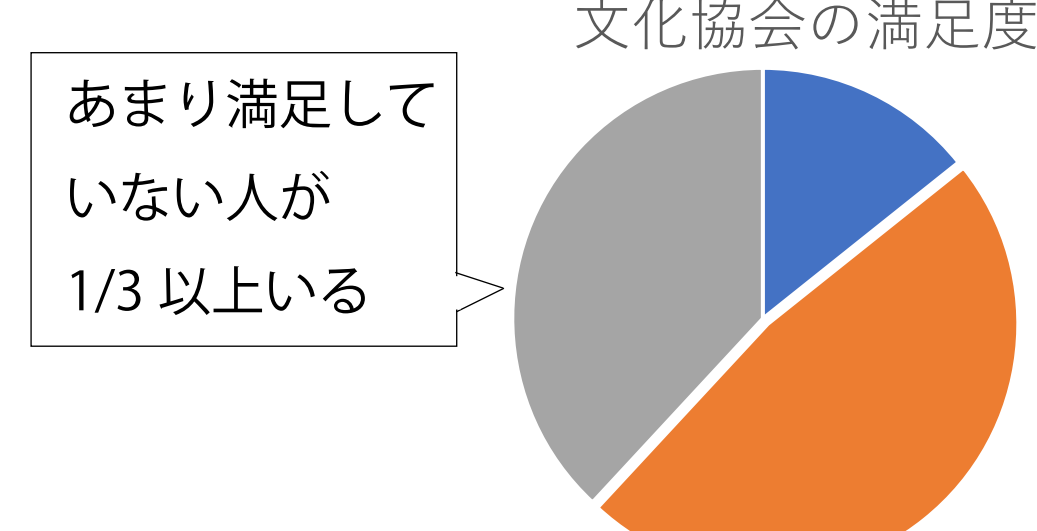
役員の現在の年齢



入会時の年齢



文化協会の満足度



・入会のきっかけ→文化協会に知り合いがいた。

・文化協会内外の交流は部門によってばらつきがある。
（市や県の大会等の機会がある団体は交流がある。）

・部門への興味より人間関係を重視して加入している。

・『若者がほしい』⇔『年齢層のギャップがあり気をつかう』
（若者の参加を求める声が多いが、明確な若者の定義が不明）

③20 代を求める声も

▽ 提案

○マルシェ

例) 花木センター
（そば祭り、子供向けイベント等）
あぜみち（直売所）

⇒イベント参加で認知度 UP

○高齢者サロン

趣味の延長で人に教える活動をしている人が多い
協会員が出向いて、サロンの活動をより充実させ、
勧誘も行う。

⇒50 代、60 代の人とつながるきっかけ

○市民文化祭

短期集中型にする
出店を出す

⇒より多くの人を呼び込む



○HPの作成

「やりたいけどできる人がいない」
・市役所の方をお願いする
・他の団体に協力してもらう
・雇う
・講座を受ける

⇒協会に興味を持ってくれた人への情報

○学生参加型企画

例 1) 協会イベントを実施
→内容について共に考える
実行委員的存在になる
例 2) 小中学校の授業で講師（俳句など）

⇒若い世代の認知度 UP



○文化協会の方々

文化協会とは
「市民の文化振興促進の役割」 → 協会員で自覚のある人は
「社会的意義があるもの」 少ない

意識改革の必要性

外部との交流、イベント参加によって
自覚を持つ（認知度 UP にもつながる）